

「心を与える」

まずは与えることから始めよう。富のあるものは富を、才のあるものは才を、時間のあるものは時間を。しかしなんとと言っても、人が人に与える最高なものは心である。他者のための「思い」と「行動」に費やした時間、人とともにどれだけの時間を分け合ったかによって、真の人間としての証がなされる。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

日本の古い歴に合わせ、季節の変わり目や人生の節目に沿った書や花、物を飾り心豊かに楽しむことを室礼(しつらい)と言います。昔ほど自然や季節、行事を意識する機会は少なくなったかもしれませんが、気温の変化を感じたり美しいと思う心や健やかな成長を願うなどの気持ちはきっと今も変わりません。心から湧いてくる自然への思いを形にし、周りの人と気持ちを共有しながら今ならではの室礼を楽しんでみるのもいいのではないのでしょうか。

子どもたちは、戸外に出かけ葉っぱや草を見つけると大切に胸ポケットにいれたり、「持って帰りたい」と大切に握りしめています。室内に戻るとそれらを自分で飾り見るたびに拾った時の嬉しさや喜びを思い出しているようです。秋に向けて木の実や色とりどりの葉を、散歩などで見つける機会が多くなってきます。子どもたちにとって自然を見て、触れてたくさんを感じたことは何事にも変えられない宝物だと思います。「赤い葉っぱがいいな」「まあい実が欲しい」など季節の変化を感じながら、拾い集めた素材を使い、製作をしながら子どもが自らイメージを湧かせ作り出す面白さや出来た時の達成感を沢山味わってほしいと思います。そして、それらを飾ることで達成感や満足感を感じたり豊かな心が育まれていくと思います。

朝夕と涼しくなり気温差があるため、体調に十分留意しながらこの時期にしか体験できない遊びや経験が出来るよう工夫していきたいと考えております。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子

職員一同

9月聖句

あるものは、百倍にもなった。

マルコによる福音書 4章1節～9節(8節)

9月主題

「のびのびと」0歳

- ・お祈りやさんびかを歌う姿を見てまねようとする。
- ・保育者と一緒に空の雲を見たり虫の声を聞いたりする。
- ・興味の幅が広がり「のびのびと」身体を動かす。

「きこえる」1・2歳

- ・さんびかや聖書のお話に親しむ。
- ・保育者との関係が深まって、遊びや応答を楽しむ。
- ・夏から秋に移り変わる中、虫の声に耳を傾けたり、風を感じたりする。

～子どもたちの姿～

暑さもようやく一段落し、季節の移り変わりを感じる頃となりました。みんなで一生懸命育てた紫キャベツの収穫では、「大きくなったね」と触ってみたり、「採れるかな?」と心配顔で友だちに聞いている姿も見られました。大きくなったキャベツは中々持ちあがらず「重たいよ…」と言うと「手伝ってあげる!」とそばにいた友達が声をかけ、二人で力を合わせて「せーの!」と持ち上げ、周りにいた子どもたちは「もう少しだよ」「頑張って!」と応援し始めました。子どもたちは仲間意識が芽生え、応援されると嬉しい、自分が友だちの力になれて嬉しいと感じているように思います。収穫した野菜などは、今後子どもたちが、様々な活動に活用していく予定です。これからの子どもたちの心の育ちを感じながら、その可能性を活かせるよう支えていきたいと思っています。



	月	火	水	木	金	土	日
9月の予定表				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12 身体測定	13	14	15	16	17	18
	19 敬老の日	20	21	22	23 秋分の日	24	25
	26 誕生日会	27	28	29	30 クレイシュ通信		

◎引渡し訓練の詳細はまた後日連絡します。
◎9月から2歳児はエプロンをせずに食事をする練習を開始しますので着替えを多めに用意をお願いします。